

2019年度 学校評価報告書

1 今年度の学校経営計画の重点

(1) 指導の根幹とした基本姿勢の設定

- 共通する視点・・・「児童理解」⇒ 理解しようとする指導者側の姿勢を大切に考える
 - ・・・「他者理解」⇒ 相手の立場を理解する姿勢を大切に考える
 - ・・・「性善説」⇒ 悪く悪く考えずに、良く考え、多面的な思考で理解を図る

(2) 学習指導「学ぶ意欲を育て『生きる力』を伸ばせる学校」

- ① 新しい教育における授業力の向上・・・「アクティブラーニング」「カリキュラム・マネジメント」
- ② 新学習指導要領の理解と活用・・・育成を目指す資質・能力がはっきりと分かる授業展開
- ③ プログラミング教育・・・プラグドおよびアンプラグドの実践 事例研修の機会活用
- ④ 外国語授業の指導力向上・・・MEPSによる研修機会やALTの有効な活用

(3) 生活指導・進路指導「笑顔のあいさつとやさしさの溢れる学校」

- ① 鶴川スタンダードを基本とした、一枚岩の指導体制
- ② 生活場面で活用できる、児童の「思考力」「判断力」「表現力」の育成
- ③ 「心のアンケート」の活用から児童理解へ（人権を尊重、いじめ対策、自己肯定感、家庭環境）
- ④ 保護者の理解が得られる指導（情報共有の努力 傾聴の姿勢 立場の理解）

(4) 研究・研修「教師自らが学び続け、互いに高め合う学校」

- ① 研究推進への積極的な参画（国語教育、オリ・パラ教育推進等）
- ② 自分のためが子供のためになる研修意欲（校内研究、小教研、都研等での積極的な研修）
- ③ 若手の研修意欲を支える主任教諭がもつ育成意識への期待
- ④ 向上心をもち、振り返りから、自己の授業力・教育力の向上へ（子供のために）

2 自己評価の総括

(1) 指導の根幹とした基本姿勢の設定

- 児童の教育には、その対象となる児童のことを理解することが不可欠です。また、教職員自ら、他者の理解を心がけた上での関係づくりで、児童との関係、保護者との関係、教職員間の関係、地域との連携に欠かせない関係を、指導の基本姿勢として啓発しています。
 - ・児童アンケートからの、「友達との関わりなどにおいて困った時、先生に相談したり、心のアンケートなどで先生に知らせたりすることができていますか。」の質問に対しては、肯定的な回答が70%と低めですが、困ったことのない児童もいることを考慮すると、教員の姿勢においては、まずまずの結果と考えられます。また、担任に対する不満などを校長に訴えに来る児童もいます。このことも、学校としての姿勢が良い結果につながっていると考えられます。
 - ・保護者アンケートの「開かれた学校」の評価は、95%前後の肯定的な回答をいただいています。その中の「情報発信」においては、町田市の例年の平均よりも高く評価されています。日常的な保護者との情報共有を大切に考え、「子供のために」を中心に、教師・親ともに同じ方向を目指し、児童の教育を進めていけることに、感謝しています。今後も、「相互の理解」を目指す指導の中心に据え、高い連携力を保ちながら、児童の健やかな成長を目指していきます。

(2) 学習指導「学ぶ意欲を育て『生きる力』を伸ばせる学校」

- ① 新しい学習指導要領の理解に基づき、校内研究を進めています。ただ、児童アンケートや保護者アンケートの結果からは、まだまだ取組が不十分と考えられます。「学ぶ意欲」を高めるために、「基礎基本の定着」を確実なものにするために、さらに教員集団の工夫と努力が必要です。

- ② 今年度は移行期間ではありましたが、一人一人の教員の授業改善に対する意識を高め、1コマ1コマの授業における「学習目標の明確化」が図れる工夫をさらに改善し、子供たちに「今、何を学習しているのか」「この時間に付けなければならない学力は何か」を意識させられる授業力を高めていきたいと考えています。そのためにも、日常的な校内でのOJTや校内研究の活性化を図り、教師一人一人の授業力向上を目指します。
- ③ 学年に応じた実践では、不十分さを感じています。教科書の指導内容がほぼ終わった時期に取り組む計画もありましたが、新型コロナウイルスの影響により、3月の取組が実現しなかったこともあります。次年度は、教科書で取り扱う5年生の算数、6年生の理科の他にも、その基礎となる考え方を全ての学年で、系統的に「プログラミング学習」を扱っていきます。
- ④ 町田市教育委員会が用意してくれたMEPSによる研修機会やALTの活用機会を生かした1年間の取組が行えました。来年度は5・6年の教科としての外国語、3・4年生の外国語活動、1・2年生の外国語に触れる学習機会が指導要領に位置付けられます。今年度の取組をさらに充実させ、高い指導力をもった教師集団を目指していきます。

(3) 生活指導・進路指導「笑顔のあいさつとやさしさの溢れる学校」

- ① 鶴川スタンダードについては、学年に応じた内容になっていないことから、その定着に向けた指導上の活用に無理が生じていました。鶴川地区で統一した指導内容を作った当時の必要性が、時とともに段々と形骸化してきたこともあり、次年度は、改めて「鶴三小スタンダード」として本校独自のスタンダードを作成し、指導に役立てていきます。基本理念は変えずに、学年に相応しい内容となるようにします。低学年保護者からの「学習に臨む基礎・基本的な姿勢」の定着もスタンダードとして低学年に指導します。また、学年進行により、高学年でのスタンダードも改めて定め、「決まり・約束」を「決まりだから・・・」ではなく、「なぜ、決まりや約束事があるのか」の理由を考えさせる指導の材料として作成していきます。
- ② 学習に意欲的に取り組むためには、日常生活で、落ち着きのある環境が大切です。そのために、集団を構成する一人のメンバーとして、自己の行動を自己で管理できる力が必要です。今年度は、生活場面で活用できる、児童の「思考力」「判断力」「表現力」の育成を目指した生活指導に心がけました。そして、自己の行動を振り返ることを指導の基本として、取り組んできました。次年度以降も、引き続き指導し、落ち着きのある生活環境を目指していきます。
- ③ 「心のアンケート」の取組はとても大切です。回答は、児童と担任との会話が始められるきっかけとなります。回答後は十分に時間をとって対応しています。今年度は、「いじわる」な行動を起こす児童への対応はありましたが、「いじめ」として重大な案件につながる事例はありませんでした。「心のアンケート」が児童の悩み相談にしっかりと活用できるように、今後も丁寧な取り組みを続けていきます。
- ④ 保護者の理解が得られる指導でなければ、学校における指導は意味をもちません。そのために、担任からの情報発信や情報共有は、学校教育の根幹に当たると考えます。今後とも、保護者の皆様のご理解とご協力をお願いします。また、地域からの情報も合わせて指導に役立てていきたく、地域で育つ児童への、温かい見守りと連携にご協力をお願いします。

(4) 研究・研修「教師自らが学び続け、互いに高め合う学校」

- 校内研究の推進は、本校の課題であります。保護者の午前中授業への協力をいただいて（同じく、月に一度の町田市小学校教育研究会への参加も）いることを念頭に、教師としての資質・能力の向上を目指していく覚悟が必要な取組です。テーマの課題解決を各研究授業時の研究に留まらせずに、1年間の継続した研究として、まとめを目指す教員の意識を高めていく必要があると感じています。成果を積み重ね、さらに授業力向上につながる継続した研究を進める工夫を課題として、次年度以降も意識を高くもった研究にしていきます。

3 学校関係者評価の総括

今年度は6名のスクールボード理事で、協議会を運営しました。学校公開等の学校行事への参加や、3回の学校支援地域理事協議会を開催し、学校評価に至っています。今年度の「児童アンケート」「保護者アンケート」の結果、「自由記述の集約と校長のコメント」や、アンケート結果の経年変化資料を基に、スクールボード理事それぞれに、学校関係者評価としてまとめていただきました。

各理事の評価は以下の通りで、6名分の資料となります。特にまとめたの総括ではなく、各理事のコメントをもって学校関係者評価とさせていただきます。

○ 村上 貞司 様

発達の特性から、一斉指導の枠に収まらない子どもはどの学級にもいます。そうした子どもたちの学びを支援する授業のユニバーサルデザイン化は、どの子どもにもわかる喜びを感じさせます。学級づくりの観点からも特別支援教育の充実が求められているように思います。今後とも、より質の高い教育を施す学校、子供一人一人が安心して通える学校として、ますます発展してくれることを願っております。

○ 竹村 礼子 様

毎年、アンケートの回収率が高いという事は保護者の皆さんがそれなりに感心を持って子どもや学校を見ているのだと思いますが、学校に何かして欲しいだけではなくもう少し家庭でしなければいけない事もあると思います。お互い相手を信頼して協力する事で、子どもたちも安心して生活できる社会になると思います。

○ 宮崎 有理 様

現代において、支えあおうとする意識や人間関係が希薄になってきている中で、鶴川第三小学校は学校・家庭・地域の方々が連携して子供たちをサポートしていく体制もあり、恵まれた環境だと感じます。アンケートでは満足のいかない結果もちろん出てはおりますが、大事なものは、その中でもよりよくしていくという気持ちで、それぞれの立場で改めて学校・家庭・地域の方々との関わりかたを再考していきたいと思いました。小さなことでもいいので、皆様にも改めて恵まれた環境があるということを感じていただき、それを当たり前と思わずに、大切にしていっていただきたいと思っております。

○ 佐藤 郁夫 様

地域を見渡すと、たくさんボランティア、有志の方に支えられているのが、わかります。学校はそんな有志の方がたくさん関わって成立していると感じます。できる範囲で、少しでも手伝ってみると、金銭に代えられない経験が得られると思います。

○ 大塚 勉 様

アンケートの結果（集計）を拝見しましたが、毎年回収率の高さには驚きます。所感ですが、特にNo.10の項目は、保護者の方々の現状（心境）がよく表れた数値ではないのでしょうか？ No.11の結果も地域協力者として、嬉しい結果だと思います。

自由記述欄を読ませて頂いて、個々の意見に対して回答を行う事は素晴らしい事だと思いますが、今後、個々の対応に苦慮されるのではないかと、心配です。

○ 功刀 みさほ 様

子ども達が成長過程で自分を振り返った時、「私は、家族や学校や地域の多くの人々から愛情や教をいっぱい受けて、今の自分がいる」という思いをもって欲しい。その為に私達大人は何をすべきか。

後回し出来ない事、体現してみる事の有効性、精神的な安定、過剰な物や情報の中で小学校の6年間は物事や思考の基礎作りの時、子ども達が自分への自信を培う大切な時間をどうサポートするか。家族、学校、地域それぞれの立場で出来る事から寄り添わなければならないと思います。

4 学校評価を受けた改善策

(1) より質の高い教育を施す学校を目指して

- 個々の児童には、学級の中の児童、委員会等の活躍する場での児童、登下校中の児童、放課後の児童、ご家庭での児童などなど、様々な環境下で個性を発揮する場があります。また、個々の児童一人一人がもつ個性・特性も一人一人異なります。私たち教職員集団は、個を理解した上で、それぞれの環境にいる児童の教育に携わります。そのための教育力を備えるために、教員は研修を重ねています。「より質の高い教育を施す学校」を運営していくためには、研修機会を大事にしなければなりません。教科指導のために行う「教材研究」「教材準備」は基本中の基本。学習指導要領を踏まえた、カリキュラム・マネジメントやアクティブラーニング、共同的探究学習等の手法。また、児童理解のために自己の教育力・指導力を高める手立て（特別支援教育の理解、自己肯定感を育むためのコーチングやカウンセリングマインド、アンガーマネジメントなど）の研修。より質の高い教育を施すためには、教師の教育力向上が不可欠となります。普遍的な改善策となりますが、研修意欲を高くもった教師集団作りが必要と考えます。

(2) 保護者との連携 「子どもたちが安心して生活できる社会」を目指す

- 保護者の学校に対する信頼を得るためには、一人一人の教師の前向きな努力が必要と考えます。自己の教育力を高めることの他に、情報の発信、情報の共有、親の立場に立って考えることのできる多面的で多角的な発想力、同じく児童理解への努力等が必要であり、その実践が、日常の指導に良い影響を与えると考えます。教師と保護者が、「子供のために」同じ方向を向く・目指すことが、子供の成長にプラスのエネルギーとなって力を発揮します。小学校の教育では、ほとんどの指導が担任によって行われます。担任と児童の信頼関係をバックアップするのも、保護者との信頼関係となります。保護者の信頼を太くするための方策は教師それぞれ異なるところでもありますが、基本姿勢として、信頼を獲得するための一人一人の教師の努力を目指します。

(3) 地域との連携 地域人材の活用

- 新学習指導要領では、「社会に開かれた教育課程」の実践が理念となります。今年度も学校ボランティアコーディネーターの活躍で、地域との距離を近くし、様々な人材を活用させていただきました。今後も、しっかりと学校VCと連携し、地域人材を活用することで、地域で育つ・地域社会を創造していける児童の育成に進んでいきます。